

◎ 中学生ラグビー情報

ビバ!! ラグビー 中学生チーム紹介

長崎ラグビースクールの15年

85年夏、湯布院で第7回九州中学生大会が開催された。九州各県を勝ち抜いてきた8チームが1年間の集大成として湯布院の九州大会での頂点を目指す。

3日目の決勝に残ったのは、熊本、大分を破った長崎ラグビースクールと、宮崎、福岡を破った同じ長崎県代表式見中学校である。式見中が勝てば九州大会2回目の優勝、長崎ラグビースクールが勝てば初出場、初優勝となる。

長崎県代表同士の対決は、長崎のラグビー関係者にとつては嬉しい半面、どちらにも勝たせたいという複雑な心境である。それというのも、式見中のSH、SOは、長崎ラグビースクールの小学部の出身で、いわば兄弟チームのようなものだからである。力の式見、技のスクール

といった展開で一進一退が続いたが、結果は6対6で引き分け、結局両チーム優勝ということになった。

長崎ラグビースクールの場合は、練習グラウンドがなく、軽量FWで、さらに熟通いで練習に人が集まらないなどの困難の中で掴んだ初の栄冠であった。

肥満もゼンソクも集まれ!!

昭和43年1月15日、協会からの招請で秩父宮ラグビー場に赴いた松尾国弘氏(当時戸町中教諭)は、少年ラグビースクールの運営について実施と講習を受けた。長崎に帰った松尾氏は、長崎のラグビー仲間と呼びかけスクール開設を目指した。しかし、傷害事故の補償、医事等未知の問題が山積みし、2年間は準備期間として費やされた。

そして昭和45年4月29日、幾多の難問を解決し、いよいよ希望の開校にこぎつけた。最初の生徒は、ラグビー関係者の子弟と中学生若干名、合わせて25名であった。初めは戸惑いがあつたが、見よう見まねでやっていると次第に慣れ、指導者も自信を持つようになった。翌46年は、地元ラジオ局を通じて一

般募集をしたところ、一挙に100人の生徒にふくれ上がった。またこの年、初代校長長田島更一郎氏から本多岩根現校長にバトンタッチ心配の種だった医事は、外科医の鈴木良平氏が指導者になり、解決した。スクールの行事も多彩になり、春秋のハイキング、夏の水泳訓練、キャンプと消化していくようになった。

水泳訓練では、泳げない子供は片っぱしからプールに放り込み、子供はワアワア泣き出す阿鼻叫喚の光景、父母の皆さんも「存分にやってくれ」とはいうものの、その顔色は真っ青であった。水泳についての笑い話が多い。何しろ指導方法については、全くの素人だから「子供には易しい平泳から……」というので顔を上げて泳ぐことばかりコーチする。当然、サッパリ上達しない。頭をヒネツた挙句、プロに相談したところ、「とんでもない、最初は顔をつけさせて、クロールから教えなければ……」とあきれた様子であった。その後の水泳指導が多少科学的になったことはいうまでもない。

スクールの存在が知られてくると、喘息や自閉症の子供、肥満児が入学してくるようになった。指導者にとって未知の分野であったが、子供達もほとんど練習を休まず、次第に丈夫になっていった。

また、幼児期に小児マヒにかかり、一部身体の不自由な中学生がいたが、毎週欠かさず練習に励み、意欲的に活動した。彼は、卒業後も楯岡球の魅力が忘れがたかったのが、県外就職した先から「ラグ



昭和45年夏の上五島キャンプで地引き綱を引っ張る部員たち。

ビーをやりたい、使い古しのボールでいいから送ってくれ」と切々とした長文の手紙がきて、一同シンミリした思い出がある。

昭和55年には、スクールが文部大臣優良団体賞を授かるという栄誉に浴した。さらに、他スクールとの交流も盛んになり、熊本や佐賀のラグビースクールとの交歓試合、中でも福岡草ヶ江ヤングラガーズとはお互いに民宿をして毎年両地区を訪問しあっている。

両親のもとを離れ他所の家に泊るといふのは貴重な経験で、さすがのワンバク共も軽いカルチャーショックで大人しくなる。高学年になると、毎年の民宿で顔見知りになり、ヤアヤアと呼びあう仲良しになる。前述の中学生大会では、惜しくも3位になった草ヶ江の諸君が、長崎スクールに大きな声援を送ってくれた。

泣く子も黙る 鬼事務局長

現在では235名の小学生と、45名の中学生を預かり、指導者35名を合わせると300名の大世帯である。この大世帯を切り盛りしているのが末吉勇氏である。昔気質の頑固一徹、「あしたのジョー」

第7回九州中学生大会で優勝した長崎ラグビースクール。(昭和60年8月・湯布院)





決勝で長崎見中と引き分け、両チーム優勝で表彰を受ける長崎ラグビースクール(左側)。

東日本&関西中学生大会直前情報 正月大会目指すラグビーメン

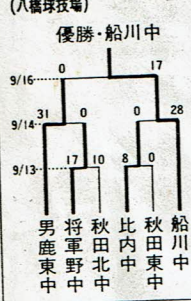
『第5回東日本中学生大会』と『第6回関西中学生大会』出場を目指し、東と西でヤングラグビーメンのホツトナ戦いが繰り広げられている。そこで今月号は、各地で行われている予選大会の模様をお伝えしよう。

第5回東日本中学生大会

来年の1月5、7日の2日間、『第5回東日本中学生大会』が東京・秋葉原ラグビー場で行われる。

過去の優勝チームは、第1回、第2回と茗溪学園が連覇し、第3回は秋田の男鹿東中、そして今年開催された第4回大会では慶応普通部が優勝している。また、第1、2回と連覇した茗溪学園中は、3、4回大会でも決勝へ進出、4年連続決勝進出というのは見事である。

第4回秋田県中ラグビー大会



今大会も、9月16日の決勝戦へ進出した。

第5回大会には秋田県から1チーム、関東から3チームと従来どおり4チームが出場、2日間のトーナメント戦に東日本ナンバーワンを賭けて激しい戦いを展開するものと思われる。
●秋田県中学大会
東日本大会の予選を兼ねた『第4回秋田県中学大会』は、9月13、14、16日の3日間、秋田県内の6チームが参加して八橋球技場で行われた。
この大会、第1回と第3回は船川中、そして第2回大会では男鹿東中が優勝しており、この2チームが毎年決勝で覇を競っている。

悩みは深し、グラウンド探し

悩みはグラウンドである。市営球技場、高校、大学のグラウンドを毎週日曜日にジプシーのようにさまよう。どうしてもグラウンド確保できない場合は、休校か

のトツツアンを思い浮かべてもらえばよい。年会費のアップなど相談にこころみのなら、いっぺんに不機嫌になる。ちなみに年会費は5000円、月に割ると4000円の年会費である。創設時4000円だから、15年経って10000円のアップである。

この哲学が徹底している。父母の会と指導者の懇親会も当然ワリ勘ということになり、ボランティア精神が貫かれている。

ハイキングである。先にハイキング等の行事が増えたと書いたのは、その辺の事情があるのだから。運良くグラウンドが取れた時でも、低学年と高学年が練習時間をずらして時差出勤となる。

さて、今年の全国高校ラグビー長崎県大会に23名のスクール出身者がエントリーされている。さらに大学、社会人でも活躍しているプレーヤーの中で知られているのは、松尾宏司(三菱重工長崎)、青井俊徳(日大2年)、84年高校日本代表に選ばれた荒木明広(同大1年)である。

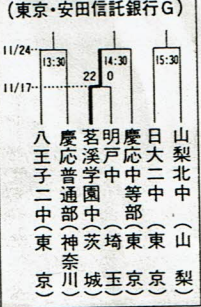
これからも、一人でも多くラグビー好きの少年を輩出することが私達の目的であり、底辺拡大に役立つことだと信じている。

たのは、船川中と男鹿東中であった。昨年は、船川中が32対0で男鹿東中を降しているだけに、今年に賭ける男鹿東中の意気込みはすさまじいものがあった。
しかし、FWとBKが一体となってハンドリングラグビーに徹する船川中は、男鹿東中を最終圧倒。3トライを奪い17対0で完封勝ちし、2年連続3回目の優勝を飾り、東日本大会の出場権を得た。

関東地区選考試合

関東1都5県(群馬を除く)には、現在59チームが活動し、そのうち7チームが各都県の代表として、この関東地区選考試合に出場した。最終日が11月24日と、締め切りの都合上間に合わないの、参加7チームを簡単に紹介しておこう。
まず東京都(27チーム)は、六中中学大会優勝の慶応普通部、私立校代表の日大二中と公立校代表の八王子二中の3チームが選出された。
伝統の六中大会を3勝1敗で制した慶応中等部は、他の成城、成蹊、青学と

関東地区代表予選会



紙一重の差で勝ち残っただけに、接戦になる予想以上の強さを発揮するチームだ。

日大二中は、創部2年目とまだ新興チームだが、実力上位の明大中野中を4対0で破り、また、早実中には22対0と圧勝しての登場である。

公立中学代表の八王子二中は、BK主体のオープンラグビーを得意とし、他の公立中学に比べて飛び抜けた力を持ったチームだ。
神奈川県(8チーム)からは、今年の東日本大会に優勝した慶応普通部が順当に勝ち上がり、埼玉県(6チーム)はデフエンスの良い明戸中、山梨県(13チーム)はFWの強い山梨北中、そして茨城(3チーム)・栃木(1チーム)・千葉(1チーム)の代表には、ハンドリングラグビーで有名な茨城県の茗溪学園中がそれぞれ選考試合に望んだ。(試合結果等は次号に掲載の予定)

第6回関西中学生大会

『第6回関西中学生大会』は、来春の1月3、5日の2日間、全国高校大会、そして全国社会人大会と並行して、東大阪市の花園ラグビー場で行われる。

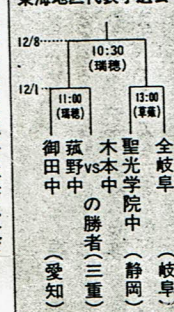
過去、旭東中(大阪・第1回)同志社中(京都・第2回)大正西中(大阪・第3回)洛西中(京都・第4回)同志社香里中(大阪・第5回)と、大阪と京都のチームが交互に優勝している。

第6回大会には、近畿中学生大会の上位2チームと、東海地区予選会を勝ち抜いた2チームの計4チームが参加し、関西を目指すことになる。

東海地区予選会

この大会は、東海4県の代表4チームで競われ、1回戦を勝ち抜いた2チーム

東海地区代表予選会



が関西大会へ出場できることになっている。今年、愛知県が御田中、静岡県が聖光学院中、そして三重県が木本中対孤野中の勝者(11月24日に決定)と単独3チームに加え、岐阜県は戦力的な問題等から全岐阜で試合に臨み、12月1日に1回戦が行われ、代表2チームが決定する。

近畿中学校総合体育大会

今年で34回を迎えた伝統ある大会で、近畿2府3県の8チームが参加し、11月10、17、24日の3日間、天理親球技場で行われた。

締め切りの都合上、11月24日の決勝の模様はお知らせできないが、17日に準決勝が行われて、長岡二中と洛西中の京都勢2チームが勝ち残り、関西大会出場を決めた。

今春の関西大会を制した同志社香里中は、大阪府予選でも苦戦の連続で、準決勝、準決勝いずれも同点抽選勝ち、そして決勝の対重中戦も3対0で辛勝と、昨年の爆発的な力強さは感じられない。

そして今大会では、1回戦で天理西中に42対0と楽勝したものの、準決勝では14対16で長岡二中に敗れ、2連覇の夢は消えてしまったのである。

京都勢2チームの関西大会アベック出場は初めてで、地元・大阪のファンとしては寂しい限りであるが、両チームともすばらしいラグビーを花園で披露してくるのだらう。

第34回近畿中学校総合体育大会

